ちょいワルオヤジの古代史エッセー

第二回「古代史を楽しんで」―訳の解からぬことばかり

大和川　一路

１．　ある日突然
２．　山の辺の道
３．　吉野ヶ里遺跡（番外編）
４．　『万葉翡翠』
５．　越の奴奈川姫（越と信濃の旅）

1.ある日突然

ある日突然、高熱が出て、保健所から 10 日の自宅療養を言い渡された。

「人生の終末が健康であることを願うばかり」と書いた途端にコロナに感染するか？3 回打ったのに。こりゃまずいぞ！糖尿病の薬を飲んでいるし・・思い当たる節が全くない。

朝から夜中まで 15 回熱を測るが下がらない。口はまずくて豆腐を食べたら辛いが、豆腐チゲにすると美味かった。時間つぶしでも好きな古代史の本を読む気が全くわかない。

YouTube で大谷翔平の活躍、Netflix でまたまた「梨泰院クラス」を見て過ごす。力がみなぎらないと古代史本は読めない。高齢者・基礎疾患ありの危険領域の人間で重症化をすこぶる心配したが、幸いなことに三日目には平熱に戻った。平常に戻っても何の感興もわかない。閉じ籠っていると精神の方がおかしくなりそうで余分なことも考えてしまう。コロナってどんな疫病なのだろうか？

8 月の感染者全国 20 万人の頃です。二週間が過ぎ本を読みたくなった、もう大丈夫だ。

『万葉翡翠』を読んでみようと思い立ちブックオフと“やず本や”に散歩がてら行ってみる。

黒岩重吾の昔の古代史小説は大きな書店にはなくて、多くはブックオフで見つけたからです。清張コーナーを二回探すがない。“やず本や”には谷崎や太宰は置いてあるが清張本がない。代わりに『われらが＜無意識＞なる韓国』四方田犬彦を買う。

題名が気になり買っただけ。作者も知りません。

帰宅後、再出動して高宮駅前の本屋さんで『駅路傑作短編集６』を注文する。

会社勤めの若き頃、現地・現物・現認を叩き込まれ、決算の時、「工場の設備の棚卸も全部やってこい！」とご無体なことを言われ腹が立ちました。設備台帳に載っていない機械を見つけ、これを「有姿除却」と知る。現場に行かないと知らぬままで終わっていたかも。機能が分かっていても速度・精度など時代の要請に応えられなかったらタダの金属のカタマリ。会計原則や法の知識だけで財務はできない。先輩から文系事務屋人間に喝を入れてもらいました。いい勉強をしました。身に沁みました。

やたらと旅して現地に行くのもそんな影響があったのかなあ？益田岩船から転げ落ちた

り、飛鳥の謎の石造物に触ってみたり体感しないと満足できないのだ。自宅療養で困憊しました。そうだリハビリで奈良に行ってみよう！旅は 9 月下旬と決めました。

韓国の友人がいないことをこの歳までズ〜と残念に思っていました。
初めての海外旅行は 35 歳の時、パルパルオリンピックが終わったあとのソウルでした。
韓国に行くと言ったら変な顔をされた記憶があります。当時の梨泰院は偽物街だったし、明洞では日本人専用のメニュー表で何倍も高い食事代を払っていた。
2019 年訪日韓国人 558 万人、訪韓日本人 327 万人。凄い往来ですけど、この差って何だろう？　231 万人も違う。この原稿を書いていて初めて知った。気になった。

近年の第一波はおじさんたちのキーセン旅行。第二波はおばさんたちの冬のソナタ。第三波は若者たちの K―POP。第一波のおじさんたちは問題外ですが、なぜ日韓はこんな関係になってしまったのでしょう。神功皇后の三韓征伐、伽耶諸国が滅び、百済が滅び、高句麗が滅び、統一新羅は高麗や後百済と争い、倭寇に盗まれ、高麗は乱れ、赤子も黙る「キヨマサガキタゾ」、李王朝は絶え、日韓併合があり、南北に分断され、軍事政権に抑圧され、光州事件があり、済州島事件は隠され、古代から現在までどれほどの人が祖国を追われ日本にやってきたのでしょう。古代史を勉強するようになって幾度も韓国を訪れたものの、韓国人の友人がいないのがもどかしい。韓国人に聞いてみたいことが山ほどあります。真実でなくとも、真相でなくとも、永い冊封の中で、延々と続く戦乱の中で、両班と奴婢しかいないと言われた近代までどんな心情を積もらせたのか。生の声で聞いてみたい。私には本や新聞や TV で知ったことが堆積しているだけで、この残酷な歴史に無頓着だった様に思います。半島におこったことに思い及ばず、思いは浅く、日本に置き換えて真剣に考えたこともなく自分は薄っぺらだなあとの感を抱く。ある日突然、そんな思いに襲われました。

韓国語でワン・ツウ・スリーも言えない情けなさ。韓国語を勉強すれば地名に残された古代の記憶の理解が進むように思うのです。「警固」これが地名か？ケイコかケーコとしか読めません。それがケゴ。韓国語は音を伸ばさない、二音目は濁音だからケゴか・・。
単純に漠然とそう考えていただけですが、講座の先生から「イザナギの禊によって、ワタツミ三神、住吉三神、警固三神が生まれ・・」と聞き、やっぱりな！
古代の記憶なんだと妙に納得する。福岡城の警護かな？ここは筑前国那珂郡警固村という地名だったのか。鴻臚館の博多警固所が由来とある。これは由来とは言えないぞ。
どれほどの勢力で渡来したのか？と思いは巡るが、いつものようにここで停思する。
2022 年 9 月は拉致問題を論ずる記事が多く、横田早紀江さんの語ることに泣けてくるし、国葬儀の賛否とか、プーチン大統領の歴史観や残虐さに思いが巡る月でした。
北への帰国事業や合同結婚式で海を渡った日本人とその子供たちのことを考えたこともなかった。国際勝共連合を知ってはいたが・・・日韓トンネルってなんだろうか？

昔も今も、人も文化も双方向であったであろうし、渡来してきた人のことだけに興味が向いていただけだったなあ、バランスが悪いなあと思ってしまったわけです。
『われらが＜無意識＞なる韓国』に手が伸びました。

2.山の辺の道

古代史ノートを繰ったら「大和し美わし very good」なんてことが書いてありました。
・大池の奥に霞む煙雨の箸墓
・崇神天皇陵拝所からの二上山と大和盆地の夕日
・彼岸花の群落に包まれた初秋の西殿塚
・珠城山１号墳からの景行天皇陵の眺め
いずれも行くには行きましたが、時期と時間が違うから何かから書き写したと思われます。出典や日時を書いておかないと後で困ってしまう。
桜咲く時、蓮の花が開く時、彼岸花で朱に染まる時、稲穂で黄金になる時、いつ行っても奈良は「ああ、ここが日本の原風景だ」と感嘆します。

あの日あの時、山の辺の道を飛鳥川師匠と歩いた時は困った。炎天下、大神神社に行く途中の坂道で止まってしまった。巨体が大汗をかいて動かない。立ち尽くして動かない。この状態をなんという。ゴルフの時は動くのになぜ動かん。運動停止じゃなくて個体凝固か、そんな言葉はないし・・。弟子としては面倒みないかんので何とか茶店まで巨体を運ぶ。霧のシャワーを浴びて、かき氷をかき込み生き返る。
大神神社では百襲姫と大蛇の箸墓伝説の話をしたり、師匠はヤマトトトヒモモソヒメと言えないし、弟子は菟野讃良皇女をウノノササラと覚えておりサララかササラか師弟ともども分からなくなってしまった。世の中の人がほぼ興味のない“倭の五王の順番”を師にその記憶術を伝授しましたが、とても恥ずかしくて世に出せません。

そういえば名古屋場所の時、ゴルフ場のロッカールームで師が靴紐を結んでいると、
お相撲さんに「お疲れ様です」と声を掛けられ「おー」と言い返した。
あなたは親方か！違うでしょ。若い衆が見間違うほどの背中がモッコリ。返事するか？

一方、山辺古道氏は還暦を過ぎても名古屋シティマラソンを走っている。二人が古代史聞きかじり読みかじりをしている頃、桜井駅から出発し聖林寺から談山神社へ、そしてけもの道をかき分け、ひと山超えて石舞台へ（深みにはまると際限がない）さらに甘樫丘あたりまで歩いて行った。“新羅王子の金多遂が天武天皇になった”、“中大兄皇子と中臣鎌足が談山神社で密談をした”、“甘樫丘は宮だ。蘇我が大王だったのだ”古代史の入り口のかぶれ話を延々としたことが思い出されます。
ここは多武峰街道と磐余の道といわれているところです。

聖林寺を見上げると石垣は要塞の城壁のようで郭務悰はここで何をしていたのだろう。そもそも天智天皇の「帝は群臣を招きて・・ここに於いて大皇弟長槍を以て敷板を刺し貫く・・」とは何だろう？　TPO が分らぬ大海人でもあるまいし。

天智が四人の娘を大海人に嫁がせる必要がどこにある？　大海人は四歳年上の弟？

和風諡号の謎と漢風諡号の意味が、猫でもわかるように書かれた本をどなたかに紹介して欲しい。天皇家の菩提寺泉涌寺に天武系の九代八人は祀られていなそうですね。

エエッどうしてそんなことが？壬申の乱の真相を知りたいなあ。

古代史ノートに「御寺泉涌寺を護る会趣意書　会長奥田　碩」が貼ってあった。

戦後、新憲法の施行に伴い宮内庁が泉涌寺に国費を支出することができなくなった。

だから財政の支援をお願いします。という趣意書。

それより奥田さんってトヨタ自動車の社長だった人ではないか。こっちにも驚いた。

桜にはちょっと遅かった談山神社にはわれら二人しかいませんでした。

神社の人に「ダメだよ、ここは紅葉の時に来るところだよ」いつもハズレです。

さて、リハビリ旅行は台風一過、青空と秋風が吹くことを期待し奈良に向かう。

初日は気になっていたことの確認で天理参考館と新薬師寺に行きました。

手元に吉野ヶ里遺跡の鳥居、慶州で見たチャンスンの二枚の写真があります。確か“ソッテ”もあったよな？と思い、天理参考館で調べてみたかったのです。古代史ノートには「朝鮮では村境などに、竿の上に鳥の形を刻んだ木彫または石彫を掲げて魔除けにする。この鳥竿をソッテと呼ぶ」「やがて鳥居の形となった。」「鳥居や注連縄の起源は雲南にあるらしい」とメモが残るが、もちろん調べていない。

参考館にソッテはありました。やはり原始的、原初的な感じのもので、比して吉野ヶ里遺跡の鳥居は違和感あるなあ・・。立派な環濠や城柵や物見櫓を備え、この防衛体制の中に鳥三羽の鳥居になんか違和感があるなあ。でも発掘して、再現した人たちは一所懸命やったと思うし、もう一回吉野ヶ里に行ってみよう。

天理駅に向かう途中「駅はどっちかな」と小学生に声をかけると「私も駅の方ですから一緒に行きましょうか」へエ～ありがたい。「何年生？」「六年生です」

「どこに住んでるの？」「〇〇詰所です」話しをしながら一緒に横断歩道を渡ると、停まってくれた車に黄色い帽子をとってお辞儀をしている。ホオッ～。

「駅はあっちの方ですから、私はこっちに行きます」お礼を言って振り返るとまだこっちを見てニコッとしている。

なんか貴人といるようで、こんな所作の六年生がいるのか。心がホコッとする。

岸田劉生の麗子をもっと可愛らしくしたような、今まで見たこともない六年生でした。

大海人は額田王女に「十市は大友皇子と上手くいってないようだな」（と語りかけた）

「十市は大友皇子を嫌い、後、高市皇子と恋に陥った」エエッ！
古代史ノートにそう書いてある。これは黒岩重吾だな。十市と大友は一途とばかり思い込んでいました。だから木彫りしたのに。私の記憶が変質してしまっていたのか？
残念だけど脳が劣化している。ならばもう一回、あの石像を新薬師寺で見てこよう。
確かに違う角度から見ると十市は哀しげに見える。彫っている時にそうとも思ったが、そのまま思い込みで彫ってしまった。（出来不出来よりも意趣違いでお蔵入り）
比売神社には請願成就・家内安全・夫婦円満の絵馬がぶら下がっている。何だこれ！
十市の生涯を思うとなんと白々しいことよ。（自分のことを棚上げして言ってみました）

二日目は山の辺の道。崇神天皇陵・景行天皇陵から南下して大神神社まで。いつもお昼ご飯は箸墓古墳を見て三輪そうめんを食べます。そしてこの度、横道にそれたことが大失敗の始まりで、大鳥居を目指してしまい大神神社までがとても遠かった。エラカッタ。
いつもと違う道順で参道の拡張工事を目にし、神聖なる三輪山じゃなくて観光地みたいになってきている。神奈備の前で何してる！いにしえの姿のままほっといてほしい。
ついでに言わせてもらうと、山の辺の道に“卑弥呼のふるさと“の案内板がいたるところにある。官民挙げての大攻勢で「ひみこちゃん」まである。「記紀万葉ゆかりの地」の英・仏・中・韓のパンフレットまである。「箸墓古墳は卑弥呼の墓」と明記してある。
行政や民間までもこんなことになっていようとは。
本日 24,102 歩、心身ともにリハビリどころではありませんでした。

三日目こそ旅情を。飛鳥のイメージは「ぬかたのおおきみ」と「衣ほすてふ天の香具山」
井上靖『額田女王』や草壁焔太『額田王は生きていた』この本のカバー画の綺麗なこと。
安田靫彦の『飛鳥の春の額田王』これぞ逸品。本物を見てみたい。
額田王は巫女だとか恋多き女とかではなく、賢くて優雅で太鳳やかな女性なのです。
飛鳥駅で電動自転車を借りて、清々しい風の吹く中グルっと一周。
古墳と謎石でも見物して、甘樫丘で柿の葉すしを食べて帰ろう。こう考えたのです。
レンタサイクルのおじさんが私の前に並ぶ娘に「棚田の方に行くと彼岸花がまだ綺麗かもね・・」これを小耳にはさんでしまった。真逆の祝戸方面です。そして、私は「マラ石」を拝んでから山道に迷い込み、結局棚田には行けずじまいでまたも失敗。

甘樫丘で「サバと酢飯のこの感じが旨いなあ、奈良の柿の木は葉っぱを生産しているのかなあ、枝が邪魔して香具山が見えないよなあ」とぼんやり景色を眺めていると数人が登ってきた。案内の女性が歴女たちに「は～い、みなさ～ん。あれが耳成山ですよ～。あの山の奥の方が纏向です。緑のコンモリしているのが見えますか～箸墓古墳ですよ～。卑弥呼の墓ですよ～」アア、もう手の打ちようがない。

3.吉野ケ里遺跡（番外編）

会社の仲間を誘導して金沢は継体天皇、大阪は仁徳天皇が目的の社員旅行をやりましたが、実はもう一つ８年前、福岡まで遠征したことがあります。吉野ヶ里遺跡です。

その時の観光写真が鳥三羽の鳥居でした。またも二つのグループに分け、若い子たちは福岡の王道コースで明太子つくりや水炊き、ラーメン。おじさんたちは夜の中州で飲むは食らうはカラオケ大会。次の日は筑紫野カントリーでグダグダゴルフ。生態系が違う。

「鳥三羽の鳥居」の写真で理屈をこねていてはいかんと思い、奈良から戻りすぐに吉野ヶ里へ現物現認に行く。

公園の職員の方かボランティアの人かわかりませんが、話を聞いてみました。

（一人目の方に）鳥が三羽とまっていますが発掘で出てきたのですか？

「一羽だけだよ」「鳥はとまる時、ハネはとじるだろ」

「あれ、広げてるだろ。飛び立つ瞬間だから飛鳥（あすか）ってゆうんだよ」

私はウェルカム・ゲートなのだと悟った。南内郭にも北内郭にもあった。

みんな「ようこそここへクッククック我らの吉野ヶ里♬」なのだ。

（二人目の方に）王様があんな地面に住んでいたのですか？

「そうですよ。王は竪穴式、巫女は高床式。王様は地を司り、巫女は天を司りますから」

「山まで4～５キロ、昔は海までも４～５キロだったんですよ。塩をつくっていた跡も見つかってますよ。絹で勾玉と交換してたのかな」「木の鍬があまりに沢山出てきて埋め戻ししたこともあったんですよ」「決定打に欠けるのは卑弥呼の墓が見つかっていないことね」「土器の文様が唐子・鍵遺跡みたいに屋根がクルッとしていたらここの屋根もクルッとなっていたかもね」「脊振山はあの山と山のＶの向こうのところヨ」

（三人目の方が）質問はしないが声を掛けられ、少々上から目線で説明を受ける。

「楼閣に階段がないだろ、この階段はカンナ掛けてあるから違うんだよ。どうやって登ったと思う？」「ここに立ってごらん。向こうの方に大きな柱が見えるだろう。巫女さんはあれに向かって祈ったんだよ」「大きな穴の跡が見つかって、ここから真北だから・・」

「北枕って言うけど、北は鬼門じゃなくて尊い所なんだよ。ここから真北なんだよ」

「魏使は難破して、それで志賀島で金印が見つかったのかもしれんな」「呉の印がここで見つかったら敵かもしれんよ」このおじさんも古代史が大好きなことは分かりますが、余り端折らずに語っていただくと有難いのですが・・。しかし段々話の内容が理解できなくなってしまい退散し、バスに乗って出口まで。遠いところではパークゴルフを楽しんでるようで、私はここなら 18 ホールできそうだな・・ここを池越えショートにして・・。卑弥呼の余韻も消えてしまって、ここはどうなってしまうのだろうか。

1989 年「吉野ヶ里ブーム」の時、１日 20 万人が来たと聞きます。今日は 20 人も見なかった。吉野ヶ里遺跡にいる人たちはここが邪馬台国だとは誰も言いませんでした。

4.『万葉翡翠』

「駅路傑作短編集６」に『陸行水行』も入っていた。うれしい。でも売りは『駅路』か？

キャッチコピーは「平凡な永い人生を歩き、終点に近い駅路に到着した時、耐え忍んだ人生からこの辺で解放してもらいたいと願い、定年後の人生を愛人と過ごそうとして失踪した男の悲しい末路を描く」竹内まりあ『駅』のもの悲しさ、侘しさと妙に雰囲気が似ている。いつもながらキャチーな文章を書く出版社の社員さんはすごい。

「ニッポン人脈記　邪馬台国を求めて」新聞の連載記事がとってありました。また出典と日時が書いてない。多分、10 年くらい前の朝日新聞。清張のことが書いてある。

1967 年第一回吉川英治文化賞に宮崎康平、文学賞に松本清張が決まる。戦後の邪馬台国ブームの立役者。そうだったのか、その頃か、同時受賞だったのか。中学生の私が波に乗れるはずがない。清張は『断碑』『石の骨』で在野の考古学者の悲劇を書いた。

女王卑弥呼は、古今の小説家にインスピレーションを与えた。横光利一の『日輪』、黒岩重吾の『鬼道の女王卑弥呼』、帚木蓬生の『日御子』などが挙げられている。

いずれも読んでいない。読みたいが 50 年も後追いはつらい。

帚木は邪馬台国は筑後川流域に置いた。物語を通訳を代々の生業とする使譯一族に語らせた。とある。福岡に移住して一年半、筑後川流域も分からない。10 月にある筑後川古代史フェスタ「古代の久留米・三潴」でどんな話が聞けるのか楽しみだ。

『万葉翡翠』を読み、『駅路』を読み、『陸行水行』は最後にとっておいた。後追いはつらいどころか、10 年前に読んでいたら面白くなかったと思う。今この時に読めて本当に良かった。邪馬台国の場所はさておき、全篇清張の在野の反骨、中央の学者への怒りが満ち満ちているし中短編とは思えぬほど中身が濃い。ブームの火付けになる訳で、これから古代史を勉強される方は絶対、後で読んだ方がいいと思います。福岡に来て知った脇田温泉も恵蘇宿も、読み方さえわからぬ三潴まで出てくる。堂本印象さんまで登場。

「水行二十日を試みた二人は国東半島の富来という海岸に溺死体となって漂着した」

最後の一行「詩人の彼らは、昼は太陽の運行を眺め、夜は北斗星をみつめて、決して南を東に取違えるようなことはなかったであろう」こんな風に書かれたら「昼は人が造り、夜は神が造った」までも浮かんでしまうじゃないか。計算づくだ。もう、凄い傑作。

『万葉翡翠』は読むのが遅すぎました。『邪馬台国の秘密』と同じベッド・ディテクティヴ。ただし高木彬光より清張の方が先。その地では自生しないフジアザミが殺人場所を教える手法は、映画やテレビドラマの殺人事件の仕掛けでよく見ました。清張が種を撒いて、あとに続く人が手を変え、品を変えてドラマをつくってきたのでしょう。

金鉱脈なら目がくらむが、ヒスイで友を殺すのかな？

古代人がどうやってヒスイを加工したのか、勾玉はどうしてあの形なのか、どうして歴史

から消えたのか。これが書いてあると勝手に想像して読んだ。そして最後に二人は翡翠勾玉歴史論争となり激高して思わず手が出て、避けようとして友は崖から滑り落ちて死んだのである。殺人事件ではなくて事故だったのだ。そういう筋立てをしました。

ところが清張は「膨大な翡翠の産地が此処にある。独占出来たら・・夢のような財産。僕は大金持ちになります。そのために今岡の後頭部を金槌で叩かねばならなかったのです」ときた。あれっ違うな。殺人事件より激しい正論合戦で不幸な結末を招いてしまった方がいいのになあ。「素人が何を言ってる!!」そうですか、すみません。

この短編集で古代史を十分楽しみました。

５．越の奴奈川姫（越と信濃の旅）

台風 14 号が福岡を直撃した時、名古屋の友達から大丈夫かと電話を貰う。お互い伊勢湾台風の時は親父に言われ雨戸を押えていたし、彼は港の近く海抜 0 メートルの住人なのでことさら心配します。彼の畑は開発・設計、生産技術に品質保証、私の真逆の純粋理系の技術者。そうだグッドタイミング。聞いてみよ。

「古代人になったつもりで勾玉の加工について教えてほしい。形状出しと穴あけと表面処理とで何が難しい？」理系は話が早い。

「ヒスイは水晶と同じくらいで硬度 7 くらい。ダイヤモンドカッターで削って・・」

「違う、違う、鉄もないし・・縄文時代だよ。土曜日までに教えて」

「台風の準備と犬の散歩で忙しい。資料送るわ」

「資料なんかいらん。素人にでもわかるように紙に書いてちょうだい」

数日後また電話があり、

「葬式があってさ宿題やっとらん。父親も母親も 8 人兄妹だもんで、嫁の方と併せると 30 人も叔父さん叔母さんがいて大変だが。「タケノコ持ってきゃあ」って言われて」

「韓国の国旗の真ん中の丸が勾玉二つ合わせた形に見えるけど・・・」

「おう、調べてみるわ。」「そんなこと調べんでいい。宿題はよやりん」

娘が小さい頃に水晶髑髏の話を聞かされた。興奮しちゃったのかな。

マヤの遺跡から出たクリスタル・スカルを見たら子供は虜になるでしょう。

私も今の今まで古代人がどうやって加工したのだろうと思っていた。

『水晶髑髏は全部ニセモノ、ドイツの宝石職人が作った工芸品』とネットに出ていた。

アホらしいにもほどがある。古い地層に土器を仕込んだ話とおんなじか！

文系といえども、“ものづくりの会社”におれば精密加工や表面処理のことは多少は知っている。原価計算にも必要だ。ヒスイと聞けば水晶を連想するし、まさか水晶髑髏のゴッドハンドに半世紀もダマされていたとは情けない。姫川で勾玉を見れば分かるだろう。もうこれで余波を遮断して、ヒスイの加工のことはヤメ。我が身の本分「古代史を楽しむ」世界にもどることにしよう。

越と信濃は、紅葉と黄葉がいっぱいで、水平線は長く、稜線は高く、ワンダフルでした。
弥彦神社→天津神社・奴奈川神社→ヒスイ海岸→穂高神社→諏訪大社四社を巡る。
越の奴奈川姫はほぼ知らなかったし、糸魚川という川が流れていると思っていました。諏訪大社が四つあることも、御柱が十六本あることも知らなかった。
無知を恥じ悲嘆にくれる旅路かな（どころか、学びの意欲がわく歴史旅となりました）
“日本海文化の源流をたどる”この旅でパッと視界が広がる。
古代の宗像・出雲・丹波・越の日本海ラインは大陸と海で結ばれた最先端ラインです。関係図をジッと見ていると嬉しくなってきます。海人族が重要だ！

阿曇族が来た渥美半島には恋路が浜があり「都を追われた高貴な男女が逢うことのないままお互いの名前を呼びながら死んでいきました。男はミル貝、女は女貝になりました」どうもパッとしない伝説で、元愛知県人としては残念です。

糸魚川にはヒスイを支配した奴奈川姫、三つの黒姫山が囲む支配領域、宝石に孔をあけた世界最古の事例、半島の古墳からも出てくる勾玉、海人族が見え隠れして話しが大きい。渥美半島とスケールが違う。『お諏訪さま物語』を読み進めると川崎さんがヒスイの形状出し、表面処理、穴あけについて「先人たちの技術には驚かずにはいられない」と述べておられます。ヒスイ加工の思いを共有したようで、この記述も妙に嬉しかった。

海人族は天文学も海洋学も船の開発・設計にも優れ、製造技術のレベルも高かったのでしょう。陸と海と川と山がつながる物語にたどり着きました。
ところで海人族とはどういう族でしょうかね？宗像や安曇は奴国に領地をもっていた。縄文時代から海を支配。弥生時代にも半島・大陸とも交易して富はしっかりある。倭国大乱で奴国は邪馬台国に取って代わられた。その時、逃散したのか配下になったのか。
どこからの渡来人と交ざったのでしょう。入れ墨のある南方系ですか？
倭国大乱後から大和朝廷が安曇比邏夫を船団の大将軍にまで取り立てた経緯が分かりません。

※宗像の姫様一人省いてます。

（奴奈川姫）　天津神社・奴奈川神社　（奴奈川姫）
↓夫婦　↓母子
ニギハヤヒ←宗像三女神→（大国主大神）　→　父子　→　（建御名方神）
子↓　子↓　出雲大社　諏訪大社
（天香語山命）　（事代主命）
弥彦神社　三輪山

11月5日（土曜日）読売の朝刊がホテルにありました。
4日、新潟県がヒスイを「県の石」に指定。記念式典で「ヒスイ発信　固い決意」
市長の挨拶「世界最古のヒスイ文化発祥の地として歴史・文化的価値を周知するとともに、未来に向けた持続可能な利活用と保全に努め、地域振興を図っていきたい」
また、行政の百官が原稿を書いたな！これじゃSDGｓじゃないか！
新聞の写真をよーく見ると「ヌナカワヒメ子とマガタマ子」みたいなユルユルマスキャラがここでも二人ニコニコしている。
『古代の爆発！断層と翡翠の地。神代から続く勾玉は世界の遺産：糸魚川！』みたいに素人でも浮かぶ言葉でキックオフしてもらえないものだろうか。
昭和に再発見されたんでしょ！一体、何年経ちましたか。遅すぎますよ。
民間の人が昔から頑張っています。民間パワーを行政が頼りにしたらいいのになあ。
また、文句を言ってしまいました。この度は、お詫びに一首献上します。

翡翠や　ヒスイの碧に染まり　飛ぶ　（不詳）
〈俳句の世界では翡翠は　かわせみ　〉

この旅の収穫のひとつ。私の中の「古代のお姫さま三大美画」がやっとそろいました。
『飛鳥の春の額田王』安田靫彦
『木華開耶媛』堂本印象
『高志の国の奴奈川媛』川崎日香浬
同行された社長さんに「かわさきひかりさんのあの赤いスカートで飛んでる絵」で通じて『お諏訪さま物語』をわけていただき、1ページ目に載っています。
真澄や七笑よりずっと素晴らしいお土産になりました。
そんなものと比べるなと怒らないでください。酒好きの発想ですから。

食事をしながら飲み、飲めると知ったらまた部屋で飲み、古代史語りはまこと楽しい。
飲めば飲むほど想いが聞けて、執念、文句、不満もみんな耳ざわりがいい。自説が出たらそろそろ就寝タイム。一晩寝ると八割は忘れてしまう。怖いのは大事なメモが次の日ないことだ。相当酩酊自戒すべし。
九州の人は焼酎をツルツル飲みますが、若き頃の特技、大量飲酒が通用しません。先輩方は古代史を何十年も研究され郷土に根ざしているので話題が具体的でとても面白い。

「具体的」と言えば、四方田犬彦氏の本にこんなことが書いてありました。（一部省略）
「韓国人は花札が大好き。それが日本起源であることをほとんど誰も知らない。原型はポルトガルから日本にきたカルタ。花鳥風月の絵柄に対応させた点は中国、朝鮮からの影響。つまり花札はヨーロッパとアジアからの流れが、戦国時代の日本という場所で合流しあう

ことで生じた遊技。それが任天堂を通して韓国では日本以上の人気。文化が移動し交流するというのは、抽象用語では説明のつかない、こうした具体的な過程のことなのだ」なるほど。なるほど。任天堂がミソだな。

講座の先生「古代史はロマンではない」その時代の時と場所と人を探り、歴史の真相を明らかにする地道で具体的な作業なのだ。言葉と想いがわが身に沁み込んできます。

よーし、有言実行。2023 年は頭の中の 5 S で『論点・日本史学』、継体天皇ともう一つの苦手な神功皇后の克服で『西日本古代紀行神功皇后風土記』を読んで、その地を訪ねてみよう。ビートルに乗って釜山から金海の博物館に行って伽耶のことを丁寧に見てこよう。旅で出会った“なかがわ自然楽会”の方にお願いし山登りをしてみよう。

飛鳥川師匠と吉野に行く約束もした。田主丸の先輩と耳納連山縦走の約束もした。

みんな初めて、はじめの一歩。福岡に来たからにはシジャギパニダ。これこそ古稀をむかえる心のひとつの置き所。クリスマスに第九のコンサートを聴き、ごまサバを食べて今年はおしまい。福岡の方に受け入れてもらい、遊んでもらえてありがたいことです。